

2017年度学生による授業評価集計結果概要について

1. 調査の概要

(1) 調査目的 自己点検・評価の一環として、本学学生の授業に関する理解状況等を把握することにより、本学における教育内容及び方法の改善に資すること

(2) 調査方法 郵送による質問紙調査

(3) 調査対象

① 対象科目

【学部】

	基盤科目	基盤科目(外国語)	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報	自然と環境
H29(2017)	2	3	8	10	12	4	3	7
	夏季集中科目(司書)	夏季集中科目(看護)	計					
	1	0	50					

【大学院】

	生活健康科学	人間発達科学	人文学	情報学	社会経営科学	臨床心理学	計
H29(2017)	2	3	2	1	4	2	14

① 対象者 2017年度第1学期履修登録者
 ※対象科目の全登録者から学部科目250人、大学院科目200人を無作為抽出
 ※登録者数が上記の人数未満の科目は全数
 ※1人当たり最大3科目まで

(4) 調査時期 質問紙配布: 8月8日(平成28年度第1学期単位認定試験終了後)
 質問締切: 9月29日
 調査結果の集計: 10月

2. 集計結果

(1) 回収状況

	標本数(人)			有効回答数(人)			回収率		
	全体	学部	大学院	全体	学部	大学院	全体	学部	大学院
H29(2017)	13,027	11,515	1,512	5,229	4,524	705	40.1%	39.3%	46.6%

付録) 2017年度学生による授業評価集計結果の概要等について

(2) 回答者の属性

【学部】

年次	新コース所属全科履修生						全科履修生 (計)	選科履修生	科目履修生
	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報	自然と環境			
2015	13.8%	14.4%	13.3%	12.6%	2.6%	8.8%	69.2%	16.4%	8.9%
	旧専攻所属全科履修生								
2016	1.7%	0.4%	0.5%	0.2%	0.6%	0.4%	66.3%	21.0%	8.4%
	新コース所属全科履修生								
2017	7.4%	14.4%	13.2%	13.9%	5.7%	6.2%	75.3%	17.7%	6.1%
	旧専攻所属全科履修生								
2015	12.6%	21.5%	11.0%	11.1%	4.1%	10.3%	75.3%	17.7%	6.1%
	旧専攻所属全科履修生								
2016	2.5%	0.3%	1.3%	0.3%	0.8%	0.4%	66.3%	21.0%	8.4%
	新コース所属全科履修生								
2017	2.5%	0.5%	0.6%	0.2%	0.4%	0.7%	75.3%	17.7%	6.1%
	旧専攻所属全科履修生								
年次	性別		年齢別						
	男	女	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
2015	51.2%	47.3%	0.4%	7.3%	12.5%	18.5%	18.3%	27.6%	14.9%
2016	47.4%	51.2%	0.2%	7.3%	13.7%	20.7%	18.5%	26.1%	13.0%
2017	48.2%	50.2%	0.4%	6.8%	11.1%	20.5%	19.1%	27.0%	14.7%

※無記入のものがあるため内訳の合計は100%にならない

回答者の属性

【大学院】

年次	新プログラム所属修士全科学								修士全科学 (計)	修士選科学	修士科目生
	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営学科	文化情報学	人文学	情報学	自然環境科学			
2015	6.1%	3.3%	1.7%	2.4%	-	4.2%	0.7%	1.4%	20.1%	66.5%	9.0%
	旧プログラム所属修士全科学										
2016	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	23.4%	63.1%	10.4%
	新プログラム所属修士全科学										
2017	1.5%	3.3%	1.8%	2.4%	-	7.7%	1.8%	4.6%	28.6%	62.6%	7.7%
	旧プログラム所属修士全科学										
2015	3.0%	4.1%	5.0%	6.5%	-	7.5%	1.3%	0.9%	28.6%	62.6%	7.7%
	新プログラム所属修士全科学										
2016	0.1%	-	-	-	-	0.3%	0.3%	0.3%	23.4%	63.1%	10.4%
	旧プログラム所属修士全科学										
2017	0.1%	-	-	-	-	0.3%	0.3%	0.3%	28.6%	62.6%	7.7%
	新プログラム所属修士全科学										
年次	性別		年齢別								
	男	女	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上			
2015	52.4%	44.0%	3.7%	10.5%	21.3%	26.7%	27.0%	9.6%			
2016	65.1%	33.1%	1.8%	7.5%	18.5%	27.4%	30.7%	13.5%			
2017	51.1%	46.4%	1.6%	9.2%	17.2%	30.1%	30.8%	10.6%			

※無記入のものがあるため内訳の合計は100%にならない

付録) 2017年度学生による授業評価集計結果の概要等について

(3) 評価結果(4段階評価における評点平均)

【学部】

①項目別の状況

	取組姿勢			授業評価全体			難易度・分量			放送授業			印刷教材			通信指導・単位認定試験			全体評価		
	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R
2015	3.14	3.17	3.10	3.24	3.25	3.21	3.22	3.21	3.23	3.22	3.29	3.09	3.19	3.21	3.16	3.26	3.26	3.25	3.23	3.24	3.20
2016	3.14	3.18	3.09	3.21	3.26	3.16	3.20	3.24	3.16	3.23	3.34	3.08	3.18	3.23	3.13	3.25	3.25	3.24	3.27	3.30	3.22
2017	3.14	3.14	3.13	3.23	3.23	3.23	3.20	3.18	3.23	3.21	3.27	3.16	3.18	3.19	3.18	3.28	3.28	3.27	3.28	3.26	3.30

②【B-20】満足度の専攻別等の状況

	全体	メディア別		コース・科目区分別						
	全対象科目	TV	R	基盤科目	基盤科目(外国語)	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報
2015	3.27(3.75~2.65)	3.26	3.29	-	-	3.30	3.34	3.38	3.15	3.08
2016	3.27(3.75~2.65)	3.29	3.19	3.31	3.07	3.25	3.22	3.33	3.26	3.20
2017	3.26(3.50~3.02)	3.24	3.29	3.44	3.02	3.36	3.23	3.25	3.31	3.13

※()内の値は「最高値～最低値」

コース・科目区分別		
自然と環境	夏季集中科目(司書)	夏季集中科目(看護)
3.17	-	-
3.10	3.25	3.21
3.25	3.50	-

	性別		年齢別						
	男	女	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
2015	3.26	3.28	2.69	3.21	3.28	3.25	3.30	3.29	3.29
2016	3.25	3.24	3.38	3.20	3.16	3.21	3.29	3.30	3.22
2017	3.23	3.29	2.82	3.24	3.24	3.31	3.21	3.26	3.30

(3) 評価結果(4段階評価における評点平均)

【大学院】

①項目別の状況

	取組姿勢			授業評価全体			難易度・分量			放送授業			印刷教材			通信指導・単位認定試験			全体評価		
	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R	全体	TV	R
2015	3.21	3.17	3.22	3.31	3.29	3.32	3.33	3.28	3.35	3.25	3.28	3.24	3.28	3.24	3.28	3.32	3.30	3.33	3.30	3.27	3.30
2016	3.35	3.43	3.32	3.45	3.47	3.45	3.47	3.47	3.46	3.45	3.52	3.42	3.44	3.42	3.44	3.45	3.37	3.48	3.53	3.54	3.52
2017	3.24	-	3.24	3.33	-	3.33	3.36	-	3.36	3.29	-	3.29	3.27	-	3.27	3.31	-	3.31	3.38	-	3.38

②【B-20】満足度の専攻別等の状況

	全体	メディア別		コース・科目区分別						
	全対象科目	TV	R	生活健康科学	人間発達科学	人文学	情報学	臨床心理学	自然環境科学	社会経営科学
2015	3.34(3.69~2.80)	3.35	3.34	3.42	3.39	3.57	3.18	-	2.81	-
2016	3.53(3.73~3.06)	3.58	3.50	3.73	3.38	3.46	3.07	-	3.61	-
2017	3.38(3.30~3.48)	-	3.38	3.43	3.34	3.33	3.48	3.47	-	3.30

※()内の値は「最高値～最低値」

	性別		年齢別						
	男	女	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	
2015	3.30	3.41	3.24	3.26	3.40	3.33	3.32	3.44	
2016	3.49	3.62	3.50	3.59	3.45	3.46	3.65	3.48	
2017	3.37	3.39	3.00	3.37	3.47	3.43	3.29	3.36	

(参考)集計方法について

各質問項目について、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の回答をそれぞれ

4、3、2、1の4段階の数値をあて、平均値を出し集計している。

2017年度学生による授業評価調査票 (学部)

次の科目についてお答えください。

科目名	日本語アカデミックライティング('17)
科目コード	1150022

- I. この授業科目を学習して、あなたはどのような印象や感想をお持ちになりましたか。次の①～④及び(1)～(20)の項目について、あてはまる程度を4段階で評価し、4～1の番号にそれぞれ1つだけ○を付けてください。(この面が済みましたら、裏面にもお答えください。)

(注) 通信指導を提出していない方、単位認定試験を受験していない方についても、回答できる範囲でお答えください。

A. 授業評価をしていただく前に、あなたの授業への取組みについてお尋ねします。

		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
①	全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	4	3	2	1
②	放送授業を十分に視聴した。	4	3	2	1
③	印刷教材を熱心に学習した。	4	3	2	1
④	単位認定のための学習方法について、次の1～3のいずれか一つを選んでください。 1. ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ。 2. ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ。 3. 放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ。				

B. 以下のアンケートにお答えください。

<授業の難易度・分量>					
(1)	放送授業の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(2)	放送授業の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
(3)	印刷教材の難易度は適切だった。	4	3	2	1
(4)	印刷教材の内容は適切な分量であった。	4	3	2	1
<放送授業>					
(5)	講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。	4	3	2	1
(6)	講師の熱意が十分に伝わった。	4	3	2	1
(7)	放送授業は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
(8)	(テレビ科目についてのみお答えください) テレビの特性が十分に生かされていると感じた。	4	3	2	1
	(ラジオ科目についてのみお答えください) 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。				
<印刷教材>					
(9)	印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった。	4	3	2	1
(10)	印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	4	3	2	1
(11)	図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(12)	印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	4	3	2	1
<通信指導・単位認定試験>					
(13)	通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	4	3	2	1
(14)	通信指導は学習内容の理解に役立った。	4	3	2	1
(15)	単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。	4	3	2	1
<全体評価>					
(16)	授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。	4	3	2	1
(17)	学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	4	3	2	1
(18)	新しい知識が身につく視野が広がった。	4	3	2	1
(19)	この科目の内容を全体としてよく理解できた。	4	3	2	1
(20)	この科目の内容には全体として満足している。	4	3	2	1

裏面に続きます。

付録) 2017年度学生による授業評価集計結果の概要等について

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

(学部)

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(あてはまる番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	[全科履修生 新コース所属の方] 1. 生活と福祉 2. 心理と教育 3. 社会と産業 4. 人間と文化 5. 情報 6. 自然と環境 [全科履修生 旧専攻所属の方] 7. 生活と福祉 8. 発達と教育 9. 社会と経済 10. 産業と技術 11. 人間の探究 12. 自然の理解 [選科履修生・科目履修生] 13. 選科履修生 14. 科目履修生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()

どうもありがとうございました。

<参考までによろしければ以下についてもお答えください>

この授業科目を学習するきっかけとして、本学の告知番組『授業科目案内』(テレビ又はラジオ)を視聴して決めましたか?
(1. はい ・ 2. いいえ)

参考資料：相関係数について

アンケートの分析などで、近年常識になってきているのが統計学の手法である。

「相関」は統計学での基礎的な理論で、ある項目と別の項目の間の因果関係を分析するアプローチである。

例えば、

項目Aの値が高ければ高いほど項目Bの値も高く、

項目Aの値が低ければ低いほど項目Bの値も低い

などの現象がみられたら項目Aと項目Bは相関関係がある可能性がある。

相関係数は、ある項目と別の項目の相関の程度を数値化したものである。

数値化するにあたっていろいろな理論があるが、最も一般的なのが「ピアソンの相関係数」である。(以下、「相関係数」と略記)

これを求める理論の詳細は省略するが、

重要な点は次の2点である。

1) 相関係数は $-1 \sim 1$ までの値を取り得る

2) 相関係数の絶対値が 1 に近ければ近いほど、比べている項目の相関は高いと言える。

1) に関して、相関係数が負の値になるということは、

項目Aの値が高ければ高いほど項目Bの値は低く、

項目Aの値が低ければ低いほど項目Bの値は高い

というような逆転現象がおきている場合である。

2) に関しては、次のよう目安がある。(R は相関係数の値)

$1.0 \geq |R| \geq 0.7$: かなり高い相関がある

$0.7 \geq |R| \geq 0.5$: 高い相関がある

$0.5 \geq |R| \geq 0.4$: 中程度の相関がある

$0.4 \geq |R| \geq 0.3$: ある程度の相関がある

$0.3 \geq |R| \geq 0.2$: 弱い相関がある

$0.2 \geq |R| \geq 0.0$: ほとんど相関がない

参照:

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/abek/htdocs/stat/corre.html>